

令和7年6月30日付【日本水道新聞】

新ビジョン策定 地域社会持続へ主体的に

<挑戦から実践へシフト>

水コン協

挑戦から実践へシフト

新ビジョン
策定 地域社会持続へ主体的に

全国上下水道コンサルタント協会（水コン協）は、今年度から10年間の長期ビジョン「AWSCJビジョン2025～2035」を策定した。「地域社会の持続を支える水インフラマネジメントの実践をコンセプトに、事業体の補完者として多様な官民協働（PPP）を提案することを掲げたほか、上下水道マネジメントを「挑戦」から「実践」のステージへと進めて積極的に地域の水インフラマネジメントに関わる決意と姿勢を込めた。今年度中にビジョンで掲げた施策を具体化するための行動計画を策定する。

今月12日に開かれた第44回定時社員総会後の40周年式典の中で、種市尚仁企画委員長が新ビジョンの概要についての紹介とともに前ビジョン期間の総括を行った。

新ビジョンの紹介では、使命として▽技術の継承▽多様な官民協働の実践▽技術開発の推進——を掲げたことや、▽業界発展に向けた要望・提案活動▽人材確保と経営基盤強化支援▽災害支援▽技術力・品質・倫理向上支援▽会員企業の連携強化や異業種連携の支援——に取り組むとしたことを説明した。

前ビジョン期間10年間の振り返りでは、▽デジタル技術の進化・急速な発展▽働き方改革の進展▽AI技術の進展による業務の高度化▽SDGsを意識した持続性確保の重視▽価値観の多様化▽

気候変動に伴う災害激甚化や生物多様性の喪失▽施設老朽化問題の顕著化——などの社会の変化の中、同協会では、▽会員の経営基盤強化や交流促進のための技術研修会や働き方セミナー▽技術者懇談会▽魅力発信に向けてSNS発信——に取り組んできたことを振り返った。

また、公益社団法人への移行を機に行った社会貢献活動や公益事業の強化の結果、災害協定の締結は600団体を数えるまでに至り、コンサルタントの社会的な存在価値を高めたとした。そして、10年前と比較し売り上げは1・5倍以上、職員数は1・3倍に成長して規

模が拡大し、総売上利益も向上し、経営基盤強化